

学校と家庭・地域をつなぐ学校だより

はぐくみ



令和 5 年
11月14日
第 21号
松葉小学校

一日校長～古林 育恵 様



<学校評議員の古林育恵様>

11月10日に、学校評議員の古林育恵様（くるみ保育園の園長）が一日校長としてお越しくださいました。ボランティアさんによる絵本の読み聞かせ会と授業を参観していただきました。本校にはくるみ保育園の出身の子も多数いて、古林園長に笑顔で手を振る子も見られました。子どもたちの成長した様子を見られ、古林様は大変喜んでいました。

園では遊びが中心で、その遊びをする中で興味のあることを伸ばしたり学びに結びつけたりしているそうです。学校も共通するものがあると思えました。教え込むことは簡単ですが、子どもたちの本当の学力にはなりません。子どもたちが学びたいという気持ちを大切にしたい授業をしていく必要があると感じました。

学習に向かう姿勢がよくできています。先生たちの的確な声かけもあり、健やかに成長している様子が見てとれました。幼いころの面影はありますが、そこからたくましく成長していてびっくりするのと同時に大変うれしく思いました。

バスケットゴール どう使うか？～代表委員会～

11月10日に代表委員会が開かれました。これは、企画運営委員と4年生以上の学級委員、委員会の委員長が出席して、学校全体の問題を話し合う会議です。今回は、「運動場にあるバスケットゴールをみんなで楽しく使うにはどうしたらよいか」というテーマで話し合いました。発端となったのは1年生と6年生が一緒に使用中、誤ってぶつかってしまうという事案が起きたことです。このことを受け、安全に楽しくバスケットゴールを使うにはどうしたらよいかについて、全クラスが「おはなしあのね」で話し合いました。今回の代表委員会はそれを受けて代表者が話し合いに臨みました。

さすが松葉小の中枢機関だけあって、さまざまな意見や質問が飛び交いました。「曜日で学年を決めて使う」という意見も出ましたが、「低学年優先と高学年優先に分ける」というルールに決まりました。ただ



<意見が飛び交った代表委員会>

し、本当にこのルールでよいかどうか、お試し期間を決めてやってみるといこともあわせて決まりました。

自分たちの問題を自分たちで決めていくことは、子どもの自主性を育てるうえで大変重要なことです。コロナ禍もあり、自分たちで動いたり話し合ったりすることが激減してしまいました。今回は、大変よい機会だと思えました。

松葉の子どもたちは場を与えられることで、さらに伸びていきます。今回のような機会をたくさん経験させて自主性を育てたいと思います。